巻頭言

生きる力と学力

会長　髙橋敏雄

岡山大学算数・数学教育学会は、平成１５年１１月１１日（火）に、創立１０周年を記念して、広島県尾道市立土堂小学校校長　陰山英男先生をお招きして記念講演会を開催いたしました。講演題目は『生きる力と学力』でした。陰山先生の講演要旨は、本学会紙『パピルス』第１０号に掲載されておりますので参考にして頂きたいと思いますが、陰山先生のお考えを、今一度復習してみたいと思います。

最初に陰山先生は、学力向上をめぐる意見として、次の様に述べておられます。

学力向上をめぐる意見

１．指導要領をもとにもどせば学力は向上するか。
　しない。なぜなら、旧指導要領のもとで学力低下は起きている。
２．ゆとり教育の結果、学力低下は起きたか。
　違う。学力低下はゆとり教育に縁のなかった大学生にも起きている。
３．ゆとり教育でゆとりはできたか。
　できてない。不登校も校内暴力も増えている。

このことから、短絡的な分析からは短絡的な対策しか出てこないし、これがまた状況を更に悪化させてしまう、と指摘されました。そして今の子供たちに、ゆとりを与えれば与えるほどゆとりは失われる。なぜならば、今の子供たちには人間としての基礎基本の力が低下していると考えられるからである、と指摘されました。ここで言う基礎基本の力というのは、学力に限らず、体力の低下や気力の低下なども含んでいます。すなわち、子どもたちががんばれなくなっているのです。

それでは、今必要なことは何か。それは、一言でいえば、元気を取り戻すことである、と述べられました。その為には

１．体力を鍛える ── 生活習慣を正し、健康な活力を取り戻す。
２．気力を鍛える ── 困難があっても、やるべきことはやり切らせる。
３．学力を鍛える ── 単純な読み書き計算を繰り返し、脳の力を高める。

ことが必要である、と述べられました。

東北大学の川島隆太教授は、単純な読み書き計算こそが、人間が人間たるゆえんである脳の前頭前野を、最も活性化させることを発見しました。それを基に、単純な読み書き計算を繰り返させることにより、高齢者の痴呆症の症状改善が見られ自分自身を取り戻してきていることを確認しています。陰山先生は、子供に単純な読み書き計算を繰り返させることにより、子供が自信を持って学習に取り組み、授業中に教室を徘徊したり校内で暴力をふるう様な問題行動を起こすこともなくなり、教育効果が高まっていることを確認しています。

単純な読み書き計算を子供にさせることは、嫌悪すべき詰め込み教育であり、これをしてはならないという教育学者もあると伺っていますが、学問としての教育学が大切なのではなくて、現実に教育を受ける子供こそが大切なのであることを肝に銘じてこれからの教育に取り組み、子供に生きる力と学力を育みたいものです。